

レトレッティ・アート・センター (Retretti Art Centre, Punkaharju, フィンランド)

フィンランドの首都ヘルシンキから北東 350m の国境付近のプンカハリユウ村にあるレトレッティ・アート・センターは、総床面積 10,000 m² 強、地上展示空間 (2000m²)、地下展示空間 (3,700m²)、1,000 人の観客を収容できる音楽ホール(1,900m²)、地下レストラン (350m²)、レストランおよびアメニティエリアなどから成っている。深さ 30m の位置に掘削された地下の多目的空間は、センターの拡張にともなって、設計者と施工者が一緒になって掘りながら設計し、全体形状としては 1985 年に完成したが、現在でも拡張工事が続けられている。形状の不規則性と水の流れや光の演出効果によって、素掘りのままの岩盤が醸し出す非日常的な空間が、壮観な環境を作り出している。Managing Director(1994 年当時)の Auvinen 氏に直々に施設の案内をして貰ったが、休館中であることが返って幸いして、施設のの一つ一つを丁寧に見ることができた。レトレッティでは、素掘り状態の不規則な凹凸の起伏が醸し出す非日常的な空間が、水の流れや音と光の演出効果によって壮観な雰囲気を作り出している。このため、他の空間では味わえない美術品の持つ美しさを引き出しているという説明であった。しかし、実際現地に訪れてみると、外部環境から遮断された空間を光、音、水を使って演出することによって、そこに入る人間の感性は極端に研ぎ澄まされ、絵画やオブジェが深層に秘めている芸術性を簡単に受入れることができる状態になっている。このため、生活環境としている平常時な空間では、気が付かなかった絵画やオブジェの美しさに容易に接することができるようになっている。また、ここは、銀行、トレードユニオン、ホテル、私企業 4 社の共同経営となっており、経費の 5% を政府が援助しているとのことであった。レトレッティでは、美術作自の展示、音楽会、オペラ、学会、会議などを積極的に受け入れており、同じ人が幾度訪れでも、行く度に違ったイベントが楽しめるように配慮されている。こうした配慮が、夏期間しか開催されていない避暑地の施設であるにも拘らず、年間 30 万人もの人が訪れる施設となっている要因であろう。



写真-2(a)レトレッティ・アート・センターの入口付近のモニュメント



写真-2(b) イベントや演劇状況(レトレティ・アート・センター)